

保連とくしま

2024年
No.91
令和6年12月1日発行

発行所 〒770-0943 徳島市中昭和町1丁目2 県立総合福祉センター内 徳島県保育事業連合会 電話 (088) 654-4461 (代)

つながり合い 認め合い 育ち合う仲間づくり ～体験や関わりを大切に、豊かな感性を育てる保育～



今注目の
“保育” 紹介

阿南市 富岡保育所



富岡保育所は阿南市の中心地にあり、1歳児から5歳児80名が元気に過ごしています。近くには牛岐城跡公園、少し足を延ばした所に阿南駅前公園、桑野川沿いに浜の浦緑地などあって、全園児が園外散歩に出かけ、自然に触れて楽しんでいます。園庭にはクヌギやセンダンの大木があり、夏は木陰を作ってくれたり、セミの止まり木になったりしています。秋に実って落ちた実は、ままごとの食材になったり、製作の材料となったりして、子どもたちの想像力を広げています。(センダンの実は口に入れないように気を付けながら遊んでいます) ダングムシやバッタ、チョウやトンボなどの身近な小動物と親しみ、季節ごとの草花を遊びに取り入れるなど直接体験をすることで、さまざまな発見や驚きがあり、命の不思議さや大切さに気づく機会となっています。また、地域や

市役所の方々にお世話をしてもらい、市役所4階屋上の庭園で野菜や果物の植え付けや栽培に取り組んでいます。大きなスイカやメロンを収穫することができて保育所でおいしくいただきました。他クラスを行き来しての異年齢交流が盛んで、多様な友達との関わりを通して相手の気持ちに気付き、優しさや思いやりの心が育まれています。パリオリンピックが開催された今年度は運動会で「つなごう!とみほっこの輪」と題して五輪の輪を作る競技を考え、日ごろの交流を生かして3歳・4歳・5歳児の異年齢チームを作り、力を合わせて頑張りました。「心身共に健康で豊かな人間性をもった子どもを育てる」を富岡保育所の保育目標として、子ども一人一人を見守り寄り添いながら、さまざまな関わりを大切に感性の育ちを支えています。

所長 折原 彰子



御挨拶

徳島県子ども未来部

子育て応援課長 **玉岡 あき子**

徳島県保育事業連合会の皆様には、日頃より、本県の子ども・子育て支援行政、とりわけ保育行政の推進に多大な御尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、令和6年4月現在における全国の15歳未満のこどもの数は「1,401万人」と、比較可能な1950年以降で最低を更新し、出生数の落ち込みによる少子化の進行がさらに鮮明になっております。こうした中、国においては、少子化対策の強化に向けて策定された「こども未来戦略」の「加速化プラン」において、幼児教育・保育の質の向上を施策に掲げ、「量の拡大」から「質の向上」へと政策の重点を移すこととし、保育士等の更なる処遇改善に取り組むとともに、75年ぶりに職員配置基準の改善が行われたところです。また、令和6年6月には、改正「子ども・子育て支援法」が成立し、「こども誰でも通園制度」の創設など、すべてのこども・子育て世帯を対象とする支援の拡充が図られたところであり、各施設におかれましては、職員配置や提供体制等、新たな対応を迫られる状況となっております。さらに、昨今、幼児教育・保育の現場でこどもをめぐる事故や不適切な保育の対応事案などが増加しており、安心してこどもを預けられる保育環境の整備も求められております。これを受け、本県では、市町村の主体的な取組を支援する交付金事業の推進に加え、さらなる「保育士・保育所支援センター」の機能充実による保育人材確保の推進や、より一層の資質の向上と職務内容に応じた専門性を高めるため、研修の機会の充実に取り組んでおります。特に、令和6年度からは市町村と連携し、保育現場における年度途中の保育人材不足に対応するため、「保育士・保育所支援センター」が行う就職あっせん事業を活用し、短期雇用に対応した新たな取組を推進しているところです。

今後も、国の動向を注視しながら、市町村との緊密な連携の下、保育人材の確保や保育の質の向上にしっかりと取り組み、安全・安心な保育環境の実現に努めて参ります。

こどもや子育てを取り巻く環境の変化にともない、保育施設に求められる機能や役割が多様化し、保育をめぐる課題も複雑化する中、こどもの心身の発達や生涯にわたる人格形成において、極めて重要な乳幼児期に多くの時間をともに過ごす「保育士・保育教諭」の皆様には、こどもの健やかな育ちを支えるとともに、保護者の身近な相談相手になり子育ても支える「児童福祉の専門家」として、大きな期待が寄せられております。

徳島県保育事業連合会の皆様におかれましては、今後も、すべてのこどもが笑顔になれる「こどもまんなかとくしま」の実現に向け、より一層の御理解と御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、徳島県保育事業連合会の今後ますますの御発展と、皆様の御健勝・御活躍を祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。



6/19 令和6年度 新任保育士研修 アスティとくしま

午前の部 「今あらためて保育の基本を」
午後の部 「音楽で育む人とのかかわる力」

講師：徳島文理大学短期大学部 教授 児嶋 輝美氏

●報告者 穴喰保育所 西山 麻友香

研修は午前と午後の部に分かれ、保育の基本や人とのかかわる力について教えて頂きました。

午前の部「今あらためて保育の基本を」では、「その子らしさ」が大切であると学びました。保育者の役割は、持って生まれた「その子らしさ」をその子にとって、幸せな状態になるように発揮させてあげることだと教えて頂きました。発揮できるようにするには、できるだけ自由度の高い保育をすることや、子どもの意思決定を尊重する保育が求められています。子どものつぶやきに耳を傾け、子どもの「やりたい」をどう実現していくかを考えることが大切だと知りました。これまで当たり前と思っていたことを見直し、子ども目線に立って少しずつ柔軟に変えていくことも必要です。子どもの主体性を尊重する保育を常に意識して保育していきたいです。

午後の部「音楽で育む人とのかかわる力」では実際に楽器を使って楽しみ、年齢に合った手遊びや、ルールのある音楽遊びを教えて頂きました。乳児期の歌いかけ、マザリーズなど音楽的かかわりは情動的コミュニケーションの成立にもつながり、認知能力、社会性、

言葉の獲得の基盤になるそうです。手遊び歌も、繰り返し楽しむことで安心感が得られます。読み合う、歌い合う等の応答的なやり取りがとても大切だと知ったので、歌や、読み聞かせの時間を沢山持ち、子どもと息を合わせる楽しさも一緒に味わっていききたいと思います。生き生きと表現する場面では、一緒に面白さを創り出す気持ちで楽しみたいと思います。

いつも、子どもの気持ちに寄り添い、子どもの「やりたい」をどう実現していくのかを一緒に考えていける保育者になりたいと思います。また遊びも歌も園全体で楽しみ、よりよい保育ができるようにしていきたいと思います。



7/11 令和6年度 四国ブロック保育研究大会 香川県 高松国際ホテル

●報告者 協町保育所 佐川 多恵

基調報告は、全国保育協議会 副会長 大和忠広氏より「全国保育協議会の取り組みと制度動向への対応」、全国保育士会 副会長 笠置英恵氏より「全国保育士会の活動について」でした。

記念講演は、大阪総合保育大学 学長 大方美香氏より「これからの保育制度の展望について」でした。「こどもまんなか実行計画」についての取り組みや、子ども・保護者を取り巻く社会の変化を理解し、保育していかなければならないことやスマホの時代になり言葉が消えていっている中で、様々な事をどう伝えて行くかがこれからの課題であると教えて頂き、個々の育ち、保護者対応などしっかり捉え日々の保育に努めたいと強く思いました。

分科会に移り、徳島県平島こどもセンター、桑野保育所、富岡保育所、今津こどもセンターの4施設の合同発表は、SDGsを意識した保育を通して、子ども

達に持続可能な社会の担い手として基となる心を育てたいという願いをもった研究発表でした。遊びの中で五感を使い、多くの経験を積み重ねることにより今の自分の行動がよりよい未来へとつながっていく学びになったという報告でした。

愛媛県松山市立浮穴保育園は、配慮を必要とする子どもや家庭への支援に向けて取り組む中で、それぞれに必要な配慮には違いがあり、関係機関との連携を密にしながら支援を考えることが大切で、日々子ども達と丁寧に関わり気持ちに寄り添った保育・家庭支援をしていきたいという報告でした。

徳島県東みよし町立みかも保育所は、生き物と関わる中で子ども達の心情がどう発達していくのかという研究発表でした。保育者に温かく肯定的に気持ちを受け止めてもらうことで、やってみたいことに挑戦し探究心、好奇心を満たしその中で自分の考えを友達や保育者に伝えたり自分とは違う友達の考えに気付いたりするようになり、仲間関係が育ち、小さな命についても考えるようになってきたという報告でした。

大会に参加して、保育現場で必要なことについて改めて考えることができました。今後も職員間で連携を取りながら一人一人の心の育ちに寄り添うことを大切にしていきたいです。



●報告者 国府保育所 簗手 愛

「保育士の資格はどうして必要だと思いますか？」という先生の問いかけから始まりました。私たちが預かっている0～5歳児の子どもたちはこの時期にどのような保育・教育を受けるかによって生き方が変わってくる。「将来子どもたちが生きていくための力を養う時期を預かる覚悟を持ってください。そして、保育という仕事は尊い仕事であると誇りを持って日々の保育に取り組んでください。」とのことでした。

これから子どもたちが生きていく社会はITが盛んになり、10年後、20年後はどのようなになっているか予測できない。これからの教育の方向性として、変化が激しい予測困難な社会の状況の中で、よりよい未来の社会を築き、自らの人生を切り拓いていくための資質・能力の育成が必要であるという話がありまし

た。「何を知っているか」（知識が分かる・知っている）から「何ができるか」（知識を使えるレベルに深める）への転換が必要とされています。これは、非認知的領域の積極的にチャレンジする、へこたれない、粘り強い、再挑戦できるなどの態度が大きく影響するそうです。このような話を聞か中で、自分自身の保育を振り返り見つめ直す機会となりました。

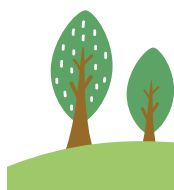
今私たちが生きている社会から大きく変わり、その変化に柔軟に対応できる力を保育の中で育むために、私たち保育者も社会の変化に柔軟に対応することが必要だと気づかされました。思考や行動を変えるということは大変なことです、その先を生きる子どもたちのために何ができるかを常に考え・行動できる保育者でありたいと思いました。

前半に子どもの体力・運動能力の育ちについての話を聞き、後半は実技での講習でした。体操クラブの指導を“木”に例えると、根っこが“あそび”幹が“運動”枝が“スポーツ”です。たくさん遊んだ子どもは、どんなスポーツも楽しむことができ、怪我をしても次へと頑張ることができる力を持っています。

1つの種目を幼児期から学ぶことは根っこから枝を生やそうとしているもので、怪我で挫折しスポーツそのものをやめてしまうことが多いそうです。技を身に着けるのは中学生になってからで大丈夫なので、まずは楽しんで体を動かす遊びを取り入れることが大切だそうです。また、今年多かった熱中症については、温度調節機能の低下により、熱中症になりやすい人が増えているそうです。幼児期（3～5歳）のうちに毛穴の数が決まるため、暑いからとクーラーの中で、寒いからと暖房の中で過ごすことは避けましょう。外気に触れ、毛穴を開けて熱を発散させる、毛穴を閉じて熱を閉じ込めることで人は体温調節ができるようになります。

保育所・幼稚園から小学校、小学校から中学校と成長し、子どもたちが運動・スポーツを楽しむためには、幼児期に体を使って遊ぶ楽しさを十分に味わうこと、外気に触れることの大切さを改めて知ることができました。

後半の実技で教えていただいた体操や体を使った遊びを取り入れて、これからも保育所の子どもたちと体を動かすことを楽しみたいと思います。



●報告者 北島町立保育所 仲井 穂乃香

午前の鳴門教育大学木下光二先生の講演では、グループワークで保育の悩みや自園での保育について意見を交換しました。落ち葉など様々な身近なものの全てが遊びに繋がっていくということや、子ども自身が興味を持って自分のやりたいことを見つけ、主体的に「活動する」保育が大切であると学びました。これまでの自身の保育を振り返り、私は子どもたちにこの遊びを経験してほしい、楽しんでほしいという気持ちが先行していましたが、身近な環境から子どもの関心に寄り添い、子どもが自分で遊びを見つけられるような保育や環境構成を、今後の保育の中で心がけていきたいと感じました。日々の生活の中での小さな出来事を幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿に当てはめることで、幼児の細やかな成長に気付くことができました。また、保護者との関わりの中でも、より具体

的な幼児の様子を伝えることができると学び、意識していこうと思いました。

午後のくすのきしげのり先生の講演では、丁寧に読み聞かせ、解説をしていただき、幼児期の絵本に触れる経験がコミュニケーション能力や豊かな心を身につけるうえで重要であると改めて感じることができました。私はくすのき先生の本を何冊も読ませていただき、特に「おこだでませんように」は印象深く記憶に残っています。この作品を読んでいただいた際の相手の心の動きや考えについて、「分かっているつもりで実は分かっていることがないことがある」というくすのき先生の言葉が強く心に残りました。今後の保育で活かしていくと共に、日々の人との関わりの中で大切にしていきたいと思います。



給食部

福井保育所 所長 木本 真美

福井保育所では、現在1歳児から5歳児までの17名の子どもたちが日常的に異年齢交流をもちながら家庭的な雰囲気のもと毎日楽しく生活しています。保育目標の一つに食育活動を充実させるというねらいがあり、栽培活動を通して食べることへの興味や関心を深め、心身共に健康で生きる力を持った子どもに育てほしいと願っています。

その取り組みとして、栽培物を大切に育て、収穫の喜びを味わい、収穫した野菜をその日の給食で調理して食べたり、衛生面の配慮や感染症対策をしながら、

子どもたちとクッキングをしたりして採れたての野菜のおいしさを味わっています。

阿南市の保育所給食では、保育所やこどもセンターで給食を食べる子どもの姿から、市役所の管理栄養士、給食調理員、保育士が献立検討会を行い、子どもたちが日々、給食を楽しく主体的に食べることができるよう献立作りを行っています。また、地産地消をいかした和食の献立を多く取り入れ、子どもや保護者にも和食の伝統やおいしさを伝えています。

保育所で採れたかぼちゃでクッキングをしました



阿南市の特産物の **筍** を使った献立を紹介します！



たけのこを持つ子どもたち



さけずし

○米	50g
○だしこんぶ	0.5g
すし酢	・酢 6.5cc ・砂糖 2.5g ・食塩 0.6g
○甘塩鮭	20g
○卵	25g
○油	0.5cc
○きゅうり	20g
○ごま	1.5g
○刻みのり	0.3g



- ① だし昆布を入れて、ごはんを炊いておく。
- ② 鮭を焼いて、ほぐしておく。
- ③ きゅうりを千切りにしておく。
- ④ 卵を焼いて、細く切っておく。
- ⑤ すし酢を作る。
- ⑥ 炊き上がったご飯にすし酢を回し入れ、混ぜる。
- ⑦ ごまとほぐした鮭ときゅうりを入れて混ぜあわせる。
- ⑧ お皿に盛りつけて、卵と刻みのりをのせる。

若竹汁

○たけのこ	10g
○わかめ（乾燥）	1g
○かまぼこ	5g
○にんじん	8g
○だし	4g
○醤油	5cc

- ① わかめは水につけてもどしてからきっておく。
- ② 筍は、下茹でて食べやすい大きさに薄きっておく。
- ③ かまぼこ、にんじんは銀杏切りにする。
- ④ 鰹節でだしをとる。
- ⑤ ②と③の材料を④に入れて加熱する。
- ⑥ 薄口しょうゆで味をつけ、わかめを入れてひと煮立ちする。



令和6年度
徳島県保育事業連合会 表彰受賞者
おめでとうございます

徳島市（9名）

No.	氏 名	公私	保 育 施 設 名	職 名
1	井上 留美	公立	徳島市立津田保育所	主 査
2	佐野 良子	公立	徳島市立名東保育所	調理主任主査
3	林 和美	私立	梅の花保育園	保 育 士
4	山本 智美	私立	みずほ保育園	保 育 士
5	角山 里美	私立	川内南アコールこども園	指導保育教諭
6	井内 春奈	私立	青嵐認定こども園	副主幹保育教諭
7	福永 明美	私立	四国大学附属西富田こども園	園 長
8	前田 真紀	私立	論田ひまわり保育園	副 主 任
9	青木 愁子	私立	沖 洲 こ ど も 園	主幹保育教諭

吉野川市（1名）

No.	氏 名	公私	保 育 施 設 名	職 名
1	岡田 優子	公立	吉野川市立 鴨島東こども園	主任保育教諭

阿波市（1名）

1	福田 美智子	公立	阿波市立 八幡認定こども園	保 育 教 諭
---	--------	----	---------------	---------

中央（3名）

1	豊田 弘美	公立	藍住町立中央保育所	主 査
2	川口 真里	公立	藍住町立中央保育所	保 育 士
3	杉本 直美	私立	あいずみ保育園	保 育 士

三好（1名）

1	山口 美幸	私立	大 泉 保 育 園	乳児保育主任
---	-------	----	-----------	--------

鳴門市（1名）

1	中村 真奈美	私立	幼保連携型認定こども園 IZUMI	保 育 教 諭
---	--------	----	-------------------	---------

阿南市（9名）

1	上田 浩子	公立	阿南市立桑野保育所	主任保育士
2	田中 壽子	公立	阿南市立宝田こどもセンター	主任保育士
3	妹尾 友紀	公立	阿南市立津乃峰保育所	主任保育士
4	勘角 あゆみ	公立	阿南市立富岡保育所	主任保育士
5	岡田 美和	公立	阿南市立本庄保育所	主任保育士
6	佐藤 小百合	公立	阿南市立明星保育所	主任保育士
7	山口 百合子	公立	阿南市立今津こどもセンター	主任保育士
8	大西 祐子	公立	阿南市立平島こどもセンター	主任保育士
9	横手 桂子	私立	な か が わ 保 育 園	園 長



全国保育士会
被災地支援スカンポ募金



研修会場に設置しています。
ご協力お願いいたします。

徳島県保育事業連合会の
ホームページがリニューアル
されました。
こちらのQRコードから
ご覧いただけます。

